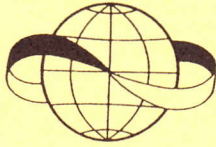


# ヴィーナス通信

Venous(静脈) Venus(護美の女神)



第13号

発行 東多摩再資源化事業協同組合  
 理事長 紺野武郎 編集長 吉浦高志  
 東京都東村山市久米川町1-16-5  
 TEL & FAX 0423-95-9788

## 容器包装R法

### 全面実施(一)

去る六月二四日、『地球環境とごみ問題を考える市民と議員の会』の総会が衆議院第一議員会館で開かれた。

総会に先立って、高月絳京都大学教授の「容器包装リサイクル法の問題点」をテーマにした特別講演が行われたが、質疑応答を加えての二時間は今後のリサイクル・ごみ問題を考える上で意義のある内容であった。一部を紹介する。

今まで実施してきたビン・缶・ペットボトル・紙パックは、容積にして廃棄物総量の十一％程度で、十二年度から始まる「その他紙容器包装類」と「その他プラスチック容器類」は五十％弱、合わせて六十％になる。容器包装類が完全にリサイクルできればごみ問題は解決することになる。しかし、この法律は手を挙げた市町村のみに適用される

ことと、再資源化を義務付け事業者と市町村の負担割合が一对十とも一对百とも言われる不合理があるため、発生抑制効果よりも新たなごみ処理機構になりかねない。

ペットボトルは、法律施行前の平成五年度は一二万トン二〇億本生産していて殆どごみ化していた。昨年度は二十万トン四五億本に伸び、十八％回収したものの十六・四万トンがごみ化したことになった。十二年度から始まるその他紙箱やプラスチックは、大半が固形燃料などサーマルエネルギーとしての利用以外実用化が難しい段階にある。

となれば、事業者も消費者も汚染者負担の原則(PPP)を履行しなければならぬ。レジ袋などのポリフィルム類の容積比は、家庭内ごみの中の一七・六％、ごみ総量の七％以上になる。買い物袋の持参だけで、大変な汚染者負担の軽

減につながることになる。自動販売機が全国に二五〇万台あり、百万KW原発一基分の電力を消費している。

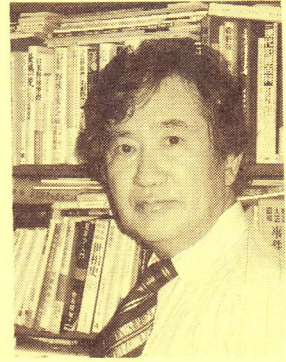
日本人一人当り一日に消費する総資源量は四六・二kgにもなり、毎日自分の体重に近いものを使っているようだ。柳泉園のプラスチック焼却の問題も議論した。廃プラの適切な再利用法が見出だせない今、地元で焼却できないものを日の出処分場に埋め続けた方が良かったのか。マスコミは、ただ囃立てるだけで、ごみ戦争の裏で苦しむ人や、無責任にたれ流す動脈産業(マスコミも含む)のことに全く触れていない。徹底的にリサイクルをしても、環境負荷は減少しない。二酸化炭素も減らない。エコライフ型の生活に変えなければ、根本的な解決にはならない。まず、どんな社会を目指すかを意識することから始めよう。

## 直言拝聴

## ゴミ問題で視聴率アップの秘密

長 会 議 審 量 減 小  
 会 教 学 大 成 市  
 授 科 学 大 成 平  
 テ ン ー タ ー ・ TBS テレ ビ 日 本 帝 京

鳥井守幸



私はテレビのワイドショーのコメントーターの仕事もしている。ワイドショーというと、最近では野村沙知代さんに代表されるように有名人のスキヤンダル追及、あるいは芸能人の不倫、離婚、そして和歌山カレー事件のような犯罪ものや流行現象などを連想する人が大半だろう。事実、そのようなテーマが放送時間の多くを占めている。

それを情報の娯楽化、無責任な視聴率中心主義と批判するのは簡単だが、それらのテーマの底流になるのは、人間の栄光、凋落や悲喜劇、人間関係に発する不信、憎悪、ときに絶望的なまでの現代文明の行方を暗示するものがある。ワイドショーは、名誉、プライバシーを犯しかねない危うい取材手法をとりながら徹底した人間主義を貫く大衆メディアの先端的存在ということもできる。

そんなワイドショーの過去の常識を破る出来事が最近あった。私が出演する日本テレビ「ザ・ワイド」でとりあげたドイツと日本のゴミ問題のコーナーが予想を越える高視聴率を記録したのだ。昼間の時間帯では視聴率が一〇%を超えるかどうか勝負のポイントといわれる。それが、ドイツからの現地レポートをまじえたゴミ問題の企画が五、六月に連日一四・五%の高率を示したのである。

この「ヴィーナス通信」でも何度かドイツのゴミ減量対策、リサイクル事情が紹介されてきたが、焼却炉廃止の要請からきた分別徹底化、リサイクル費用の製品転嫁など大胆な施策、そして、日本が大いに学ぶべき環境教育にその特徴がある。テレビの企画では、ドイツのいくつかの都市を訪れ、一回一テーマで分かりやすくレポートしたのが視

聴者の関心を集めたのだろう。所沢のダイオキシン騒動以来、ゴミ問題がワイドショーの定番の一つになりかかり、さらにドイツレポートが関心のマトになったことは、視聴者にとって何が関心事で、何が重要な生活情報かを番組制作者たちに考えさせる契機にもなったように見受けられた。

私は、テレビのスタジオで一連のドイツレポートに接しながら感じたことは、適確な現状分析をもとに確実な将来予測を立て、その解決のために、大胆で合理的な施策をつくり、実施することの重要性だろう。

このどれをとりあげても、日本の場合はあいまいだ。例えば家庭ゴミのデータである。本年四月政府が発表した一九九八年度「農業白書」は「米国の食料ロスの軽減に向けた取組みについて」というコラムを掲載、ここで米国での食

食料食べ残しのゴミ化とその削減のための市民運動を紹介した。それによると、米国農務省の調べで、全米で供給される可食食料の二七%が小売、外食、家庭で捨てられていることがわかった。実に四百万人分の食料だ。この食べ残しゴミに米国政府は毎年日本円で五十八億円の処理費をかけているというのである。

これを契機に米国で起こったのは、食料を世界の飢餓地帯に送ろうという運動ともう一つが食料ロスの削減に向けた市民運動である。国民自ら食卓を見直し、業者は小売、外食のムダをなくし、併せて政府財政の削減に結びつけようというのである。

今回の「農業白書」はせっかく、米国の例にふれながら日本国内のデータ報告はない。日本では、どうやら、このような食料ロスの統計さえとらうという姿勢がないようであ

る。まったくないといえばウソになる。実は、日本でも一九九七年度「農業白書」にほんのわずか、京都市内で九二年に実施した家庭ゴミ調査から推計した全国規模の食料ロスの記述がある。これによると、年間食料供給量のロスは五%、約三百四十万トン、埼玉県、愛知県の人口に匹敵する六百五十万人分の食料が捨てられている計算が成立つというのである。ただし、小売、外食段階での食料ロスは含まれない。このデータの基礎は七年前の京都市内のごく小規模の家庭調査である。もし、本格的に調べたら、これをはるかに上回る資料が生まれるかもしれない。

「農業白書」の担当は農林水産省だし、ゴミ問題は厚生省、環境庁、自治省の仕事という論議が出るかもしれない。国民としては、そんなことで困るのだ。いまのゴミ問題

は各省庁を超えての重要課題なのである。「農業白書」だからといって農業の基本動向の報告だけにとどまっていはいはずはない。米国での食料ロスにふれたのだから、わが国ではどうか、政府の施策としてどうあるべきなのかに踏み込むべきだと考える。

軍国少年として戦時下をすごし、戦後の飢餓とヤミ食料確保に苦労した私としては、家庭ゴミの中の「食べ残し」が一番気になる場所だ。グルメ愛好者がふえ、食べ歩き、テレビ番組が人気を高めている昨今だが、こんなことでいいのだろうか。

飽食のうらでの食料ロス。世界には過去最多十五億人の貧困・飢餓層をかかえている（世界銀行リポート）というのに、これはまさに犯罪的である。家庭ゴミの実態からさかのぼって世界環境、人間共存という地球的、人類的見地

にたどりつくことができる。

容器包装リサイクル法や廃棄物処理法の改正で、ゴミの排出抑制についてはひと頃よりは進んだし、処分場の化学物質排出データ公開も行われようとしている。しかし、ゴミ問題の根底には、現代社会の人間としてどう生きるべきかという基本がある。大量消費・大量廃棄型のライフスタイルを改めるには、住民自身どんな人生哲学を抱くべきかを迫られている。

行政は、このようなことを考えさせる適確なデータを示し、住民の意見を聞きながら将来を見据えた施策を立てることだ。テレビのワイドショーで、ゴミ問題への関心の高まりが見られることで証明されるように、市民一人一人はその重要性を認識し、そのためには努力を惜しまないとの考え方が強まっているのは確かなことである。

## 第六回通常総会開催される

### 増加する資源物に攻めの姿勢を

去る平成十一年五月二十九日(土)、群馬県伊香保において東多摩再資協第六回通常総会が開催された。

まずはじめに、司会進行役の奥山慎吾氏より、開会宣言が発せられ、藤本副理事長が開会の辞を述べられた後、紺野理事長が「この五年間協同組合は攻めの運営を続けてきた。古紙、鉄ばかりではなくペットボトル、プラスチック、紙容器など我々組合の仕事は増えていく。行政のリサイクル事業を先取りして行政に頼られる組合となる必要がある。この業界は初心にかえり、建場業に戻る必要がある。組合員が一つになって大きな建場として機能することが業界の新しい方向性を示すことになる。これからも足下を見失

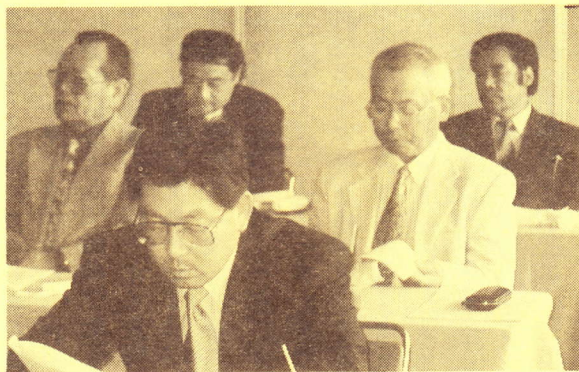
うことなく積極的に事業を進めていきたい。そして今まで以上に市民の信頼を得る組合としたい。」と挨拶を述べた。

続いて藤野副理事長が議長に選任されて議事に入り、平成十年度事業報告・決算関係報告・監査意見書報告、平成十一年度事業計画・予算案等が各委員会及び監事より報告され、いずれの案件も満場一致をもって承認された。

議事終了後、資源新報社専務大田原寛氏より、古紙需給推移・鉄スクラップ価格と小棒価格の推移という内容で再生資源業界の現状に関する貴重な講演を頂いた。(6〜7頁に掲載)更に、東京都中小企業団体中央会の原田哲郎主席から祝辞を頂戴し、続く奥山副理事長による閉会の辞を

もって今回の通常総会は無事終了した。

総会終了後、懇親会が行われ、皆でお互いの交流を深め合った。



清瀬ごみともだち主催

『どうしたらいいの』

紙の分別?』

公開講座に参加

去る五月二十二日、清瀬市

消費生活センターで開かれた、この講座には清瀬市生活環境課・柳泉園リサイクルセンター・東多摩再資協が講師として招かれ、それぞれの立場で資源物の分別・回収またその数量とリサイクルの作業状況・リサイクルの現況などが説明され、そのあと会場からの質問に答える形となった。

組合としては古紙の分別や禁忌品の説明をすると共に、古紙のリサイクルは技術の進歩で新聞用紙の古紙混入率が上がったことや、需要と供給の関係で変化する事もあり、あまり神経質にならずに、まずは積極的に集団回収などのリサイクルをしてらう事をアピールした。

また会場に集まった方々に組合が販売する雑古紙100%のトイレットペーパー「ブーメラン」を配り、再生品の使用をお願いした。

(小畑)

## 返品雑誌処理の大規模施設

### 加須リサイクル工場視察記

去る平成十一年六月二一日（月）、㈱ジャパンプクリエイトイブル主催のリサイクル工場見学会に参加し、埼玉県加須市にある㈱トーハン東京ロジスティックスセンター内協同組合東京雑誌リサイクルセンター（MRC）加須事業所を視察した。当日は、関東製紙原料直納商工組合理事長栗原正雄氏を初め古紙問屋関係者等総勢一〇八名余りが参加した。

ちなみに㈱トーハンは、委託販売制度・再販制度を特徴とする書籍の流通システムの中心で、書店と出版社との間の取次店の役割を果たしている会社で、とくに返品雑誌の取次事業の過程で、返品雑誌の再活用処理（出版元への返品用）及び再資源化処理（古紙

処分化処理）方法の一つとして、雑誌のバーコードの読み取りとコンピュータでのデータ処理をリンクさせた選別システムと雑誌の背糊裁断システムを中心とした雑誌リサイクル工場を開発したのである。

見学では、返品雑誌の搬入コンベアー、バーコードの読み取りとコンピュータでのデータ処理とのリンクによる自動選別作業施設、背糊裁断機、返品雑誌梱包用段ボール選別機、古紙化処理用雑誌のプレス機といった実に壮大な工場設備を次から次へと見学した。見学終了後、質疑応答が行われ、この中で会社側は、工場設備・機械等の能力・維持管理費用、操業に当たっての作業員の勤務体制・業務運営方法（一日の目標の達成率制

度等）、返品雑誌及び再活用・古紙化処理雑誌の運送方法とそれに係る経費（返品雑誌の運賃は書店持ち、処理雑誌の運賃は㈱トーハン持ち、経費・人件費等全コストは処理雑誌の売上金の中から出す）といったことを詳細に説明し、そして将来的には雑誌の上質紙と中質紙を自動選別することを今後の目標にしたことも述べられた。

このような将来性のある雑誌リサイクル工場によって、雑誌の自動選別化が進み、新聞古紙の不足分を補うべく良質の雑誌古紙の需要が増えることは、リサイクル循環型社会の構築にとって必要不可欠であると実感した。しかし何故返品雑誌がこのように大量に発生するのか、そしてこの工場や流通段階で費やす新たなエネルギー、コストを考えると問題も多いのでは！

環境配慮商品、完全無漂白！

トイレットペーパー

「ブーメラン」好評発売中！！

東村山市、田無市の公共施設

保育園・小中学校で全面採用

100m巻1ケース100個入り

4000円（消費税・配達料込）

注文はTEL、FAX等で受付けます。

完全リサイクル古紙回収専用紙ひも！

「エコひも君」新発売！！

牛乳パックや雑誌の回収紙で作りました。

120m巻 200円

ビニールひもよりも取り除く手間がかからず、そのまま再生出来ます。

TEL & FAX : 042-395-9788

## 民間機構優位性の情報強化を

資源新報社常務 大田原 寛

昨年度を振り返ると古紙、鉄スクラップなど再生資源の価格は実質的に史上最低の水準にまで落ち込み、業界を取り巻く環境はこれまでになく厳しいものとなった。鉄スクラップについては、二、三月をボトムとして五月に入りようやく反発局面を迎えた。一方、古紙価格については、長期低落傾向が続いているが、今年に入ってから製の紙メーカーの古紙消費は、伸びており先行きに対する期待感も出てきている。

鉄スクラップ、古紙の輸出数量は、昨年史上最高を記録した。一九九八暦年の輸出実績をみると古紙が、五十六万一千トンで前年比八〇%増加、鉄スクラップ輸出は、三百八十二万一千トンで六五%増加となった。このうち鉄スクラ

ップ輸出については、七割以上が高炉スクラップであるが、市中スクラップの輸出も増え、あああああてきており、今年前半の輸出数量は昨年を上回るペースで推移している。

古紙、鉄スクラップともに輸出先の大半を占めるのが周辺のアジア市場となっている。東南アジア、韓国では、昨年の経済成長率はマイナスとなったが、今年はプラス成長への転換が確実とされているほか、中国、台湾などの国々では、昨年に引き続き経済はプラス成長を続けている。こうした経済成長は、鉄、古紙さらには非鉄などの素材需要増加につながっている。

このような状況から、日本からの鉄スクラップ、古紙の輸出ルートは今後も継続していくものと見られる。鉄スク

ラップに関しては、輸出先国の需要増加の中で輸出価格も値上がり傾向にあり、国内スクラップ市況をリードあるいは下支えするものとなっている。古紙輸出については、新聞、雑誌は国内需給の逼迫化の影響もあり減少してきているが、段ボールは輸出価格の上昇も見込め数量は高水準を維持していく模様。

国内の鉄スクラップ市況については、五月の連休明け以降、本格的な反発局面に入ってきたが、その要因としては、前述のような鉄スクラップ輸出数量の増加、輸出価格の値上がり、電炉製品市況の値上がり、市中スクラップの発生低下、一部電炉メーカーの生産増などがある。このうち市中発生の低下については、鉄スクラップ価格の暴落の影響が、回収面に出てきていると言え、回収量を回復させるには、関東地区電炉の炉前価

格が「最低でもH211一万円」に引き上げられる必要があるとされている。電炉小棒市況は、一時期、二万円際まで値下がりしていたが、四月入り前後の大量の明細を契機として反発に転じ五月には、二万四千五百円どころまで値戻した。炉前価格も五月下旬の段階で実勢はH211七千五百〜八千円台にまで回復、六月も値上がり期待できる情勢となっている。

一九九八年度の全国ベースの古紙需給を見ると消費は、一六二七万六千トンで前年度比では一・二%の減少となっているが、前年に引き続き一千六百万トン台を維持した。また今年に入ってから古紙消費は、二月以降、前年同月比で増加傾向にある。昨年度の古紙消費を品種別でみると新聞は、三八八万六千トンで前年度比三・〇%増加、雑誌は、二三一万四千トンで同比

○・四％増加、段ボールが、七三二万八千トンで同比三・一％減少となっている。昨年度はマイナスとなった段ボールではあるが、今年二月以降は前年同月比で増加が続いている。新聞、雑誌については、年初より前年同月比で増加が続いており（新聞は昨年八月以降プラス）、今年の消費は、昨年を上回るペースで推移している。新聞古紙については、DIP設備の新増設設備稼働で需要はこれからも伸びていくものと見られ、雑誌についても同じように需要増加が見込まれている。新聞、雑誌古紙については、問屋在庫も減少傾向が続き、市場は品薄となっている。しかしながら洋紙メーカーでは、購入価格を引き上げておらず、市中相場のみ先行しているという状況にある。

鉄スクラップに値上げの動きが見られるとは言え、その

水準は依然として低く回収コストさえ確保できない状況にある。鉄スクラップ、古紙などの再生資源価格の暴落の中で再生資源業界が危機的な状況に追い込まれたわけである。これに対して再生資源業界の全国組織である日本再生資源事業協同組合連合会では、リサイクルシステム議員懇談会との共催により三月十五日に「リサイクル循環型社会構築全国決起大会」を開催した。鉄、紙などの素材循環システムの危機的な状況に国政レベルで対処することを目的として今回の決起大会は開催された。その後、日資連、リサイクルシステム議員懇談会をはじめ、関係官庁、メーカーをはじめ関係業界代表が安定的なリサイクル循環システム構築に向けて具体策を見出すための作業が続けている。民間の再生資源業界は、「低コスト、省エネルギーに徹した

民間リサイクル機構」であり、この機構を維持・発展させていくことが、国が目ざす資源循環型社会の実現に直結していることを社会的に広く訴えていく必要がある。そのためには、地域社会、行政に対して、民間リサイクルシステムの優位性をデータ的に明確にしていくことが課題となる。それと同時にリサイクルの重要性を行政などを通じて啓蒙していくことも必要であり、そのためには再生資源業界も必要とされる情報を公開していくことに取り組まなければならない。

再生資源価格の暴落の中で再生資源と廃棄物との境界線は不明瞭となってきた。現行法上での無償以下は廃棄物となり、産業廃棄物の許可の対象ということも出てくるが、「専ら再生利用」ということで例外的な措置の範疇に入っているというのが現状である。

今後は、こうした状況を一方進めて、市況の上下動に左右されることなく、常に産業廃棄物の許可を必要としない厚生省（大臣）の広域指定を受けることが課題とされている。

再生資源業界の将来性を考えた場合、国際的なマーケットの中では、鉄、紙、非鉄などの再生資源の需要はこれからも増大して行く。一方、国内においても古紙は、洋紙向けの需要がこれからも伸びていく。鉄スクラップについても鉄鋼業界の再編をクリアしていく中で、国内でのリサイクルはさらに進んでいくものと思われる。

再生資源業界としては、リサイクルのスペシャリストとしてノウハウを広く活かす時代に入っていくわけであり、「環境と産業の共生の範」として新たな発展を期していただきたい。

## リサイクル事業は官民の役割分担を明確に！

長野県茅野市では、古紙の分別回収を行っているが、集まった古紙を福島県いわき市の大王製紙に市が直接納入し、再生した新聞用紙を地元の長野日報社が再び新聞として市民に配達すると言う。

このことは、テレビでも放映され、究極の古紙リサイクルとして全国の自治体から問合せがあつたとのことだった。同市は人口五万四千人、昨年四月から古紙分別回収を実施し、一カ月の回収量は平均して百トン程度、これを近隣の古紙間屋に引取り依頼したところ、間屋は幾らかの処理料を要求したと聞いている。今、回収業者一人で月五十トン集めなければ成り立たない。しかも間屋まで運んで選分した古紙の価格はゼロから四円程度だから、市の集積所からの引取りとなればある程度の

逆有償は当然のことだ。しかし、市と古紙間屋の話し合いは不調になってしまった。

その後同市は、古紙プレス機を設置し、新聞社の仲介を得て製紙メーカーに直納した。古紙プレス機を導入するには、土地は千平方メートルから必要で、基礎工事・電気工事や倉庫・事務所・台貫・バケツト、クランプリフトなどの設置、それに四名前後の従事者が必要になる。この設備で百トンの古紙を処理するとなれば、土地建物を除いても原価償却と維持費でキロ三〜四十円は最低必要になる。

僅かな逆有償と比較すれば、市民負担は莫大なものとなる。なお、民間業者なら、少なくとも一千トン以上取り扱わなければ採算がとれない。

また行政が特定地域の資源を特定ルートでリサイクルす

ると一般的にコストは倍加する。それに地元の古紙を使わなくても新聞用紙は全国ですべて再生紙を使用している。過疎地で、このような行政施設ができれば近隣の民間施設は大打撃を受けることになる。今後、やはりリサイクル事業は官民の役割分担を明確にし、民間活用を重視すべきであろう。

## コラム

## 私の健康食生活

藤本俊光

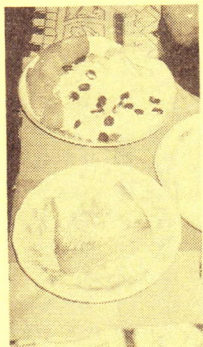
『先づ健康！』それは人間が上手に生きるためには最優先されるスローガンです。何時も健康であるためには、色々の条件がありますが、先づ食生活でせう。それで今回は私自慢の食生活を披露します。朝めし。リンゴ半分バナナ一本キャベツの千切にトマトとハム又は焼ぶた。キャベツ

の千切の上には干しぶどう、松の実、ひまわりの種、ぐみの実とカボチャの種をばらまき、それにドレッシングをたっぷりかける。後は食パン一切れと紅茶二杯。紅茶にはレモンとウイスキーを少々。早くとも朝食は一時間以上が必要で。十時にはヨーグルト。昼食は御飯に出来るだけの御馳走…。三時は牛乳をあたためて頂きます。

夕食はチーズとアルコール少々。酒のさかなは軽いもので良いのです。

私の朝食は二十年以上も続けてるメニューです。牛乳は四十年前も前から欠かしたことはありません。

私の食生活、皆様の御感想をお待ちしております。





QアンドA

Q 電池・蛍光管のリサイクルの方法は？  
A 電池・蛍光管もすべて資源に

小平市リサイクル推進課

課長補佐 藤原哲重

小平市在住の一主婦から右のような御質問が当組合にありましたので市の担当者の方にお答えいただきました。  
小平市では、乾電池、蛍光管等の水銀が使用されている廃棄物について、埋立て処分場の環境に影響があることから多摩の他市町村と同時に昭和五十九年一月から、処理困難廃棄物として、他の廃棄物とは別に回収する事になった。当時は、一般ごみ専用袋を市

民に無料配布していたので、合わせて処理困難物専用袋として赤い袋を配布、それに電池を入れていただき別途回収、現在も委託している野村興産、イトムカ鋳業所にて処理していた。

平成十年四月からは、収集体制の変更を行い「燃えないごみ」の日に収集していた、電池、蛍光管、水銀体温計を「有害性資源」として、ビン、カン、ペットボトルの不燃性資源の集収日に収集することになりました。資源と指定した理由は、委託先の野村興産で全て資源として活用している事から、資源化が図られている廃棄物として市民に理解いただき、分別の徹底を願ったことからである。その結果、平成九年度の収集量四七tに比較し十年度は八一tと三四tも増加しました。これは、一月平均にしますと約七tに

収集した電池、蛍光管の処理の流れは、排出者が電池類を袋にまとめて入れ、蛍光管は購入時のケースに入れ、それぞれを不燃性資源の日にステーションに持ち出す。市の委託業者が小平市の清掃事務所に運び、市が委託している

「東多摩再資源化事業協同組合」により、異物の除去等の選別作業を行い保管する。その後、委託業者の野村興産が北海道にある「イトムカ鋳業所」に運び、有害物質である水銀と、ガラス、金属(亜鉛、マンガン、鉄)に分け、それぞれをリサイクルするという流れになっている。

市民へのPRとしては、蛍光管は購入する際に入っている箱を利用するか、袋に入れて蛍光管と判るよう表示をしてもらうように、また、電池については、ある程度たまった段階で袋に入れて出すか、市役所、東西出張所に置いて

ある電池回収ポスト若しくは回収をしている電気店に持参してもらおうようお願いしているところとあります。特に、カセットラジオや玩具、石油ストーブなどを廃棄する場合は必ず電池をぬくようお願いしているところとあります。

現在、市として悩んでいる事は、ビンや缶の資源の中に、乾電池が混入しており、リサイクルセンターで一個一個手で拾い出している事。また、電池のほかに使い捨てライターや時計(電池入り?)が入っている事などがあります。今後は、これらの廃棄物の収集や処理・処分についても検討しなければならぬと思っております。

いずれにしても、有害物を最終処分場に搬入しないためには、より一層の分別排出を今後も引き続き市民にお願いしていかなければならないと思っております。

## 東村山市古紙回収同乗体験記

## 一 地域を品種ごとにも複数の車で回収

資源回収を楽しくすすめる会 会長 田原久子

四月十四日（水）市が実施されている、資源の日に回収業者の藤野さんの車に同乗させてもらい一緒に萩山町三丁目周辺を二台の車で回りました。

私は「リサイクルだいこんクラブ」の団体で集団資源回収をやっているので、一度行政回収を見て回ってみたいと思っていたので大感激でした。行政回収で行っている資源回収はどんな出し方で、どれだけの量がステーションに出されているか、知りたい思いがありました。

あさ八時三十分に我が家を出発しもう一台の車と合流し、一台に新聞等、もう一台は段ボール等と能率良くわけて回収に行きます。初めて萩山を歩き道の狭さやステーションの多さに驚きました。また地

域によって資源物の量の多さ少なさ、そして資源物なのに不燃物あり生ゴミありでひどい出し方もあり中を確認しないと資源物として回収できない物も多々ありました。

そういったものはステーションに残していきます。自治会や子供会、サークル等で集団資源回収をやっている地域では極端に回収量が少なく、やっていない地域では資源の量が多く、集団回収をしている地域、していない地域との差を感じました。だんだん回収をするにあたり最初は元気ハツラツ一生懸命手伝って運んで回収していたが余りにもステーションも多く、量も多く、新聞が重たく、腕や腰、足もしまいには痛くなつて疲れを感じました。汗も吹き出

しおまけに天気も良く暑く水分を補給し五十歳の身体にムチを打つてもうひとふんばり頑張りました。

行政回収をして感じたことは資源のなかにごみも混じっており中を確認しながら車に積んだりと手間もかかりました。新聞等の出し方はひもでしっかりと縛っているほうが運びやすく、新聞屋さんがある袋に入れて出すより回収しやすいこと、またこの方が古紙問屋に運んだときも作業しやすいと思えました。

とにかくたった半日でしたが有意義な一日でした。業者の車に乗せてもらい、一緒に汗を流し行政回収をした体験を今後の集団回収に良い点悪い点を活かしていきたいと思えます。これからも、地球環境、リサイクル、ごみ減量を市民、業者、団体が協力し積極的に分別回収し取り組んでいきたいと思えます。

## 新人便り

トレイ等の作業に従事して

嶋田 守

私は、今年の四月から小平市中島町の清掃事務所乾燥池、蛍光管、牛乳パック、発泡スチロールのトレイ選別・溶解の仕事をしています。特にトレイは、三四〇℃の高温で溶解処理します。

先日、最高気温三二℃の蒸し暑い中、作業した時は、滝のように流れる汗で体中びっしょりになってしまい、二台の大型扇風機で前と後ろから煽つても、まるで効果がありませんでした。溶けたトレイの臭いも一段と強く感じ、いつものおしゃべり休憩時間も言葉さえ出ない状態でのびてしまったのを覚えています。でも、作業終了後に冷たいビールを飲むのを楽しみにこの夏を乗り切りたいと思えます。

## 私の履歴書

(株)久米川紙業

会長 吉浦力夫

長崎県北松浦群田平にて漁師の父、吉浦藤実、母シカのもとに三男として生まれる。

小学校を卒業すると漁師の手伝いをしなければならなかったが、漁師が大嫌いだったので家を出て博多の軍需品店で働くことになりました。

そこでは、十九才まで勤めましたが、その間に商売の面白味を覚え、将来は自分で商売をしたいと思うようになりました。

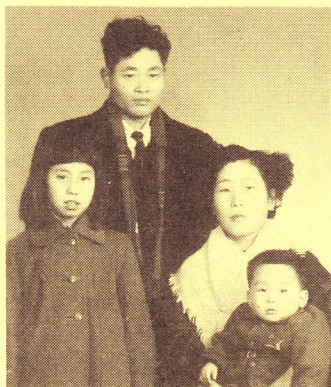
次に就職したのが長崎三菱製作所です。人生には、運命の分かれ道とか、一大転機の時、チャンスの時などの様に自分の一生を左右するような時が、必ず誰にでも2、3度はあると思います。私は、今年七十五歳に成ります。両親は五十五歳で亡くなっており、二十年も余分に生きているの

も、昭和二十年八月九日の原爆投下された時に社員寮にいないで病院にいた事が、私が長生きできた運命の分かれ道だったと思います。

その日、夜勤明けの私は、社員寮に戻って寝ようと思いましたが、体の調子がおもわしくないで、市内から遠く離れていますが以前通った事のある病院に行くことにしました。午前十一時二分一発の原子爆弾が上空500mで爆発しました。その瞬間を見る事は出来ませんでした。病院内のあまりの騒ぎに窓から市内の方角を見ると何か異様な様子に胸騒ぎがしました。慌てて寮にもどろうと思いましたが、電車も動かないので、電車で市内に向かい歩いた。やっこの思いで、帰り着いたものの、社員寮も会社もすべて爆風で潰れてしまい跡形も無くなっていました。取り敢えず私は、実家に

戻ることにしました。投下された後に、市内を歩きまわったのですが、すぐに現場から離れたので、幸い被爆もたいしたことはなかったようです。それから何日かして終戦を迎えました。

三菱製作所に戻る気もなかったもので、京都に出て仕事を捜す事にしました。見つかった仕事が、現在の基となる上田商店(建場業)の従業員でした。昭和二十六年十二月に結婚し、翌二十七年九月に長男が生まれました。夫婦二人で一生懸命働いたのですが、



なかなか生活は楽にならず、給料もあがらなかつたので、一大決心をして東京に出て行く事にしました。昭和三十年のことです。(つづく)

本号より市民の皆様から寄せられましたリサイクルに関する御質問にお答えします  
リサイクルQアンドAに御質問をお寄せ下さい

東村山市久米川町1-16-5  
TEL・FAX: 042-395-9788

「ヴィーナス通信」購読について  
購読御希望の方は、無料で郵送します  
年4回発行

東多摩再資源化事業協同組合

行事・行動

(四月)

- 六日：広報委員会
- ：容リ法・紙箱再商品化検討委→通産省
- 九日：財務委員会
- 十二日：定例理事会
- 十三日：清瀬市廃棄物減量審
- ：古紙R連絡協議会
- 一九日：R団連常任幹事会
- 二〇日：新聞R推進会議
- 二一日：中央会評議員会
- 二二日：古紙センター業務委
- 二三日：小平市廃棄物減量審
- 二六日：多摩R団連
- 二八日：紙箱再商品化検討委
- (五月)
- 七日：R団連古紙部会
- 九日：日資連総会→東京
- 十一日：定例理事会
- ：紙箱再商品化検討委
- 十三日：リサイクル議員懇談
- 十四日：紙箱再商品化検討委
- 十五日：東資協総会
- 十六日：アースデザイン田無

- 十七日：R団連常任幹事会
- 二〇日：清瀬市廃棄物減量審
- 二一日：日本弁護士連で講演
- 二二日：清瀬ごみ仲間勉強会
- 二七日：古紙センター業務委
- 二八日：東村山市集団回収を楽しく進める会総会
- 二九日：第六回通常総会
- (六月)
- 三日：中央会研修会講師
- ：新聞R推進会議
- ：東大和廃棄物減量審
- 四日：東村山廃棄物減量審
- 九日：古紙循環プロジェクト
- 十日：古紙C理事会業務委
- ：定例理事会
- 十二日：古紙問題市民ネット
- シンポジウム
- 十三日：日資連奈良大会
- 十五日：小平リサイクルC安全会議
- 十六日：集団回収委員会
- 十七日：委託事業委員会
- 二一日：R団連常任幹事会
- 二三日：広報委員会

- 二四日：市民と議員の会総会
- 二八日：多摩R団連
- 三〇日：広報委員

川柳

振興券

国がしかけた

無駄使い

燃やさなきや

ケムリも立たずに

済んだのに

余剰古紙

いつのまにやら

売れっ娘に

売れっ娘の

古紙の価格は

据え置かれ

(腰元)

編集後記

鳥居守幸様、直言拝聴に御寄稿下さいましてありがとうございます。ゴミ問題が市民にとってとても大事なことであり、関心も非常に高いこととは仕事をしている時にも感じます。いろんなことからリサイクルの質問を受けるようになりました。食料の食べ残しのゴミ化とその削減の問題はレストランや宴会、パーティなどの食べ残しを見ると私も考えさせられます。個人で出来ること、例えば家庭とかレストランでの食事の量調整はすぐにでも始めたいと思います。暑い夏がやって来まして。夏バテしないように、食事と睡眠は十分にとり元気だしてバリバリ働きましょう。

(吉浦)

